

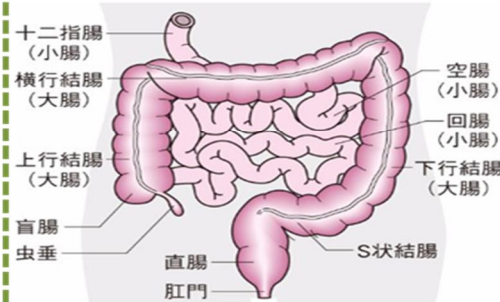
【腸切除】術後



腸を切除するということは、腸の機能を失うということ！
腸を切除したことによる便通や合併症の問題とその対処(食)

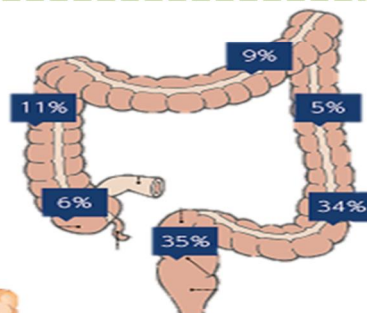
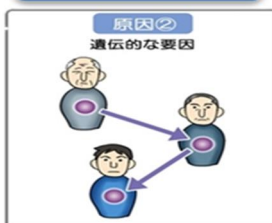
食べ物の栄養分のほとんどが、先に消化活動を行う小腸で吸収され、栄養分がほとんどないドロリしたものが大腸へ送られる。大腸の主な役割は、食べ物の栄養分の水分を吸収し、そのほかの成分を肛門へと運ぶ。

小腸は、「回腸」と「空腸」などで構成され、消化した食物から栄養や水分を吸収。長さは、成人だと4～6mにおよぶ最大の臓器で。さらに、免疫機能が強い臓器でもあるので、食物が数時間で早く通過することや、粘膜の細胞が3日程度で脱落するため有害な異物を排除する。

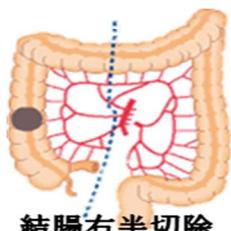


大腸は、長さ1.5～2m程の臓器で太さは小腸(五百円硬貨ほど)の2～3倍ほど。片方の端は小腸とつながり、もう片方は肛門へと続く。小腸に近い順に、「盲腸」「結腸」「直腸S状部」「直腸」の4つの部位に大きく分けられる。とくに結腸は、水分を吸収し便をつくるほか、ナトリウムなどの電解質を吸収する。

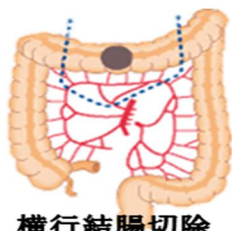
3つの原因



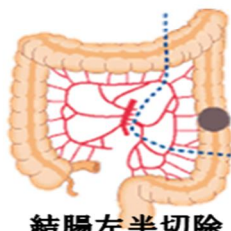
病巣箇所の割合



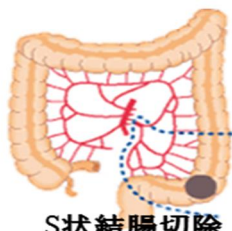
結腸右半切除



横行結腸切除

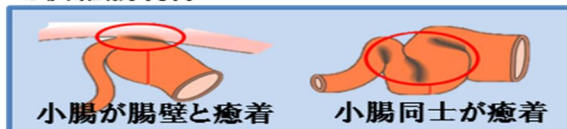


結腸左半切除



S状結腸切除

術後に起こりうる主な合併症



縫合不全

まれに、縫った部分が開いてしまことで、便が腹腔に漏れ、その部分の周囲に腹膜炎が広がることもある。

創感染

感染により術後の創が腫れたり、傷んだりすることで、回復が遅れることもある。

癒着性腸閉塞

手術で触った部分が炎症を起こし、機能が一時的に麻痺することがあり、周りの組織と段々と癒着していくことがある。

腹水

- ・生理的な正常反応
- ・腸穿孔
- ・病巣が取り切れていない
- ・肝機能低下
- ・低栄養状態
- ・感染症
- ・炎症

下痢

通常数週間ほどで便の状態も安定。結腸の術後では起こりにくいですが、直腸の術後では起こることがある。

発熱

- ・手術熱
- ・脱水
- ・副腎不全
- ・血栓症
- ・縫合不全
- ・創部感染
- ・他の部位の感染

治療の途中や終了後は、体を動かす機会が減り、身体機能が低下します。

医師の指示のもと、筋力トレーニング、有酸素運動や日常の身体活動などでリハビリテーションとして行うことが大切と考えられます。

上記の症状は、食事療法で完全に防ぐことができるわけではないが、生じにくくすることは可能。原則的には、食事の種類に制限は無く、何を食べても構わないとされていますが、食物繊維が多く含まれているものや消化しにくいものは、腸閉塞の原因となることがあるため、術後3ヶ月ほどは控えたほうが良いとされています。次ページからは、食事についてのポイントを紹介します。